

## 植生指標(NDVI)カメラ C-Yubaflex

### 概要

Yubaflex は、一般コンパクトデジカメで近赤外・赤・緑の3バンド同時撮影ができるようにした改良カメラです。付属ソフトで輝度ベースのフォールスカラーと植生指標(NDVI)画像をどなたでも簡単に生成いただけます。



### 仕様

型式	C-Yubaflex
画素数	3000×4000ピクセル 1,210万画素 / 明るさ・ピント設定フルオート / 24~120mmの光学5倍ズーム
装備	GPS 緯経度と標高を記録し、写真と移動経路を地図上に展開できます。
保存ファイル	16bitRAW データ保存 (他に 8bitJPEG データにも保存できますが、添付ソフトでは 16bitRAW データにのみ対応。)
波長帯域	緑：約 520~600nm 赤：約 600~780nm 近赤外：約 780~1000nm ※本波長帯域を得るには、付属ソフトで処理が必要です。
寸法/重量	幅 9.9×高さ 6×奥行 2.7cm / 189g
処理ソフト	専用画像処理ソフト付き

## 霜害検知用温度センサー CAP-SF110

### 概要

この霜害検知用温度センサーは2つのサーミスタセンサーを葉と枝を熱的に模倣した模型に取り付けてあります。一つの温度センサは、葉に、もう一つはつぼみに見立てています。風のない、晴天の夜間は、葉とつぼみの温度は放射冷却によって気温よりも低下し、季節によっては、0℃よりも下がります。放射冷却により冷やされる物体表面(葉やつぼみ)は、風がない日は熱交換が小さく、気温よりも低下します。このセンサーはC-CR200X、C-CR1000、CCR3000データロガーに対応するC-109サーミスタセンサと同じ規格のセンサで、SEを2ch使用します。片方しか利用しない場合は1chになります。気温を測定する場合は、CAP-ST100とシールドを使用して下さい。実際の葉の温度を直接測定するには、以下のセンサーがあります。

赤外放射温度計 極細熱電対センサ

### <注意>

夜間の放射冷却による温度低下を測定目的として黒体塗装しているため、日中は実際の葉やつぼみより温度が高くなります。

また、実際の葉の温度を模擬しているわけではありません。

植物の種類により特性が異なるので、目安としてご利用下さい。



CAP-SF110

### 仕様

型名	CAP-SF110
温度センサー	サーミスタ x 2
サーミスタ-素子	BetaTherm 10K3A11B Thermistor
測定の不確かさ/再現性	±0.2℃(-25℃-0℃) ±0.1℃(0℃-70℃) ±0.4℃(-50℃-25℃) / 0.05℃
非安定性/使用温度範囲	<0.02℃/年 / -50℃~+70℃
時定数/自己加熱	10秒/30秒(風速5m/s) / <0.01℃
大きさ/重さ	パイプ：21φ x 570mm ケーブル5m 模擬葉：70mmφ 400g
適応ロガー	C-CR200X、C-CR1000、C-CR3000
計測命令の例	Therm109(TempC,1,1,Vx1,0,_50Hz,1,0,0)